

## 教育学部長 西義一教授をお送りする感謝のこぼ

柳田 孝義

西義一先生は2013年3月をもって本学を定年退職されました。本学での勤務年数は28年に及び、定年前の4年間は教育学部長、理事として学部、大学、学園の運営にも尽力されたことは多くの皆様をご承知のことと存じます。

先生は、声楽家として本学に赴任される前から活躍されていました。個人的なことです。先生と私とは共に日本音楽コンクールでの昭和44年の同期入賞者（先生は声楽部門、私は作曲部門）で、共に20代の頃からの知り合いでした。その後、それぞれオーストリア、ドイツに留学した後、東京のある音楽学校（ここは新進音楽家が一度は集まるところで知られた学校ですが）で同僚として机を並べて学生指導に当たりましたので、指導力の高さはその時から私の心にも強く残るものがありました。その後運良く、本学で再び同じように机を並べて仕事が出来たことは個人的には大変幸せなことと思っています。

先生のお人柄についてはあらためて申し上げる必要はないと思います。学生には厳しくも暖かく、順々と丁寧に説明されますが時にはダジャレに変化し、脱線するのも愛嬌でした。同僚教員にもその癖がでることもありましたが、さすがに学部長時代は忙しく過ごされていましたので、その暇もなかったように見受けられました。

先生のご経歴は多くあり紹介しきれませんので主要な点のみを記しておきます。

東京芸術大学声楽科をご卒業の後、ウィーン国立音楽大学を最優秀で卒業され、その後二期会、藤原歌劇団、東京室内歌劇場などで演奏活動、指導者として慶応ワグネルソサエティ、練馬男声合唱協会の他、本学の合唱団コール・リンデ、声楽アンサンブル「ソーニョ」などで若い人たちに熱心に指導に当たられました。また長きにわたり、二期会会員、東村山市音楽指揮者協会副会長としても活躍されたほか、本学の教職員組合の執行委員長も務められ、音楽家としては幅広くお付き合いをされる方でした。

定年後は、落ち着いて声楽の演奏と研究に励みたいと言っておられましたので、元々丈夫な体質ですからこれからも一層ご活躍されることと期待しております。

長い間、学生や大学のためにご尽力されたことを思い、本当にお疲れ様でしたと申し上げたいと存じます。ありがとうございました。

(やなぎだ たかよし 文教大学教育学部学校教育課程音楽専修主任)